

◆「和宮降嫁、人足・人馬など倉賀野宿など宿場宛て取り決め」(伊勢崎市図書館文書「その他」No.167)

※九頁

今般

和宮様御下向板鼻宿泊當御昼

所ニ付、板鼻、高崎、倉ヶ野、新町組合ニ相成

本庄宿迄御継立仕候事

且御迎御用上京先年御下向

.....

※十頁

之節違夥敷御人数多、人馬御用ニ而

一宿御継立、立出来不申、當砌高崎

場合ニ而板鼻宿迄御継立仕候、仍之

御相談左之通

一人馬着刻遅参不参無之様出人

馬之儀者江可被申候

一喧■(口偏に花、嘩カ)口論者不申及、宿内小■(口偏に哥、唄カ)謡

ほふかむり等不致、神妙ニいたし、

御用大切ニ相心得候様篤与可申談候

一宿助郷寄人馬心得違無之様宿

.....

※十一頁

村々御取締御普請役様其外

御役々様御付添、雨天人馬之宿江

可被申談候

一此度新宿助郷差村致し道中

御奉行所様江奉願上候間、右人馬

多人数ニ付、萬端助郷御用相勤可申候事

一伊奈半左衛門様御手付御手代御出役

宿内并出人馬小屋迄御見廻り有之候間、

老村限り村々役人御精々致、人足之者

心得違、手慰様之儀不致様

.....

※十二頁

嚴重可申付候

一 乗物 壹挺

一 切棒 同行

一 垂籠 同行

一 差道具

一 具足兩掛但し合羽籠竹馬

一 宿籠 壹挺

一 長持 壹棹

一 馬

一出人馬之義老人小供、此之髮月代

いたし勿論弱人馬無之用一ヶ村

限り高張挑灯式張大小者三四張

才料衆手挑灯銘々持参、當宿

助郷合印薄墨ニ而中程ニ横筋入

.....

※十三頁

可申候、木綿ニ而小掛目印壹ヶ村宛御用意

一人馬腰札但し堅式寸五分

表 内一寸五分

■印

人足

倉ヶ野助合

老人付持

一出人馬札揚場、宿助郷立合可相出候

一人馬、色、鉄札

白 板鼻

赤 高崎

黄 倉ヶ野

青 新町

一宿々出人馬見分り候様手拭イ

黄色可致候

一板鼻宿江人足小屋敷り可申

材木竹類買求屋根藁致可紛哉

.....

※十四頁

但し筵繩等右高割ニ致、持寄相成丈

敷り入用嚴重ニいたし勿論入用石高割致也

一本庄宿与當宿助郷人馬引續方

一不調法有之候ハ、御詫可申上候

申合宿々ニて両三人宛之惣代衆

御出張持場御名前御取極可成候

一村々板明少々宛用意御持参可成候
右之通り御相談ニ及、余者口上可
申述候、以上

西九月

※十五頁

倉ヶ野宿

問屋

年寄

定助郷

加助郷

御名(主)衆

中

御組頭

一惣人足壹万四千人

馬貳千疋

内 人足三千五百人

此小屋八百七拾五坪

馬五百疋

此建坪三百卅三坪

長サ六尺
横四尺宛

馬士五百人、此小屋百廿五坪

※十六頁

右者一宿前文之通り用意致し

御継立三日之割候ニ付、大方鳴々

合可申候

一馬飼料之義ハ面々用意いたし可然候

右之通り人馬小屋用意可致候

九月廿一日

右之者御普請役元々

佐藤睦三郎様、御普請役横山信太郎様

同上條元之助様被 仰度(渡力)候

増助郷出人足

一百石ニ付八人位宛差出し申候而者

御差支ニ相成被申、尤組合
宿振合も可有候事

※十七頁

一 御給（給カ）飯板鼻宿人馬繰込之
儀御當り二日前被相定候事

一人馬小屋敷り之義疊の御普請役

様より被仰度（渡）も有之候、辨理宜

敷様御相談致度事

一人足食事手當之事三度者

銘々持參其余者五度之賄方

御請立宜敷様御相談致度事

一倉ヶ野宿助郷人馬心得方并ニ

挑灯腰札合印等義ハ前書認之通

可成候

覚

豎間三間老棟一中 樋（カ）老丈四尺拾八本

但し 末三寸

※十八頁

一 桁口三拾三間

代百四拾四匁

但し地方九拾九坪

一 内切立板老丈貳尺

屋根百三十六坪

末老寸五分十八本

右談（カ）道

代七拾貳匁

同貳拾七匁

一 桎杓丸太八尺内

末貳寸五分

七拾貳本

代百四十匁

一 貳間垂木

一 五寸竹百貳拾本

五百本

代貳百四匁 六入

十七本

一 貳間五尺

一 三寸廻り五百本

五千百本

代百廿匁 十五貫

廿五速

家根

一 貳間并四角

一 藁七拾駄

三拾六本

代金七両也

代拾五貫文

松枚丸太貳間半

末口貳寸貳拾九本 幟以(カ)千三拾五本

代八〆四百文

※十九頁

〆金七兩ト

銀壹〆八拾匁

錢貳百三拾四〆九百文

右老棟手間

壹人ニ付

百五拾人 三百文

代四拾五〆也

〆為金六拾八兩貳朱ト

錢三百四拾四文

一時増助郷 但し百名積り

八人

一高五万石

人足四千人

板鼻着日夕飯迄弁當持參前日

三賄 但し壹人分老飯米貳合五勺宛也

〆五賄

此米五拾石

當日朝昼貳賄為俵百貳拾五俵四斗也

.....

※二十頁

差上申御請書之事

一今般

姫宮様御下向ニ付、繼立人馬稀

成大数之義ニ付、宿々立場等にて

食物等中々間ニ合申間敷候間、

御泊宿々朝飯御昼休宿方

前後之内間之村ニ而焚出し度

凡玄米老飯貳合五勺位宛ニ而人足

壹万四千人馬共貳万人分提之夫

喰用意可申付事

一御泊り江人馬前廣相洗儀ニ付、
壱村者昼飯夕飯弁當ニ而翌朝
まで昼焚出し遣し不申候而者
不弁可有之事

※二十一頁

一右人数前夜結候節、雨露ニ濡し
候而者壱夜之内疲勞いたし逃去り候
ものも出来可致、仮小屋取立凡
壱坪八人宛々位ニいたし、糶(数カ)棟仮蓮(建カ)
いたし其外江馬繫場凡長サ六尺

横四尺ニ四疋連位割合ニ而式疋建
位、是所仮建致、其前江馬士之
居所も建者式方可然候

一近々寒暑の趣候ニ付、夜中焚火
等も少々宛々致し候様四坪ニ壱ヶ所も

位ニ焚火之場所壱ヶ所、薪凡四坪
ニ付六抱宛々も包立者不足不致
是尺人数申合拾六人ニ而六抱ツ、
持参いたし候様申合可御行届可申事

※二十二頁

一小屋等ニ而敷物無之候而ハ休足も
致兼可申候、人足壱人ニ付、菰壱
数宛々持参いたし敷物相用意
雨天ニも相成節者差支無之様

用意いたし持参用意申合可取計事
一右焼飯者最初ヶ場ニ塩ヲ入置
焚候ハ、程味噌有之可然事

一惣代人数割方之義者泊り旅宿
壱番式番三番ヶ番付致し、仮令
壱番長持何竿、此待人足何人
加籠何挺、此人足何人、竹馬何荷、
此人足何人、べ人足何千人成供
是ヲ何村何人江割當村役人
万一逃去候節ハ逃候者過怠与

.....
※二十三頁

重キ過料申付、右拾人組之内名前
不知ニ付、相當之過料申付位之
仕、沙駄（汰カ）ニ無之候而ハ逃る者多人
御差支ニ相成義ニ付、助郷村々一同
申合、出人足ニも皆申付可然候
一昼喰等焚出し遣、御目當ニ仮鑑
札支拵置、惣人足ニ是計遣し
弁當被引替ニ遣し可申事
一右仮建之小屋者松杵等無断候いたし
候成ニ而元立役ニ而売払拂候ハ、多分
之賣ニ者相成間敷候、其外
竹菰等損候ハ、相拂都而繩
詰（結カ）いたし候ハ、不出拵、人足等も
格別多く相掛り申間敷候事
.....

※二十四頁

但し助郷村々役人之義ハ其外と
別れ元立夫然候与申合
次第之事

一辨當焚出し之義何等ニも家々
大小ニ随而焚出し、表江松杵板江
人足辨當渡之所方（与カ）印置、其家ニ而
拵夫何切候居右札引込セ候ハ、
差支有之間敷、尤往来端之
儀ニ付、火元別段心得付御泊宿
人足焚出し、當更（カ）口旅宿逃ニ付
火之元格別念ヲ入、焚火等も
致候義者夜も少々宛用意致し
置候ハ、纔免ニ火ハ消しも可致
且香水ニも可相成事
.....

※二十五頁

右者今般御下向之義者稀成
義ニ付、萬端御差支無之様致度

且役人足大勢可成丈銘々用
意も有之候ハ、同(何カ)分も存寄を申
談置候、■(右カ)之内御■(口偏に望)所者御手當
有之へく伺濟之上可申渡諸
俟万(方カ)領分之義者格合違候得共、
是又御沙(汰)ニ而も銘々右丈生(成カ)用意
無之候而時節被用意可致置候
右之通り御談之趣承知奉畏候
一同申合用意仕、追而御手當
等之義者御伺臨之上被仰渡候
旨是所承知仕候、仍而御請書、如件
.....

※二十六頁

深谷宿初メ
本庄宿
新町宿

文久元年

酉九月廿八日

松平藤次郎領分
中仙道倉ヶ野宿